

2024年8月9日(金)～2024年10月14日(月・祝)

## 下道基行 《瀬戸内「漂泊家族」写真館》公開のお知らせ

公益財団法人 福武財団（香川県・直島 理事長：福武英明）が運営する宮浦ギャラリー六区では、2024年8月9日(金)から《瀬戸内「漂泊家族」写真館》を公開します。

アーティスト・下道基行によるプロジェクト《瀬戸内「漂泊家族」資料館》は、2019年9月から5回の展示を公開し、今回で6回目を迎えます。本展において下道は、直島の持つ“流動性”に着目。マレーシアの文化活動家であるジェフリー・リムとの共同制作によって、現在の直島の風景や人々の肖像を記録・展示する“写真館”をオープン。作家がとらえた直島独自の“流動性”を視覚的に表現します。



町民限定写真スタジオのイメージ



“漂着物カメラ”



“漂着物カメラ”で撮影された写真

## 《瀬戸内「漂泊家族」写真館》について

直島の主要産業である三菱マテリアル直島製錬所では数年で異動する人々が一定数いるほか、学校の先生や警察官、診療所の職員は3年ほどの任期となる傾向があります。2000年代以降は観光産業の隆盛により都市部からの移住者が増加していますが、数年で別の場所へ再び移住する場合も見られます。下道はこのように人々が入り出りする様子を直島独自の“流動性”ととらえました。今回の展示タイトルは“直島は人々が漂着物のように流れ着き、泊まる中でお互いに出会い、ある者はまた漂っていく”という下道の感覚を表現しています。

今回の展示は、かねてより下道と親交があったマレーシアの文化活動家 ジェフリー・リムとの共同制作によるものです。ジェフリー・リムは2012年から、廃材等でカメラを制作し、地域の人々を撮影することで、その地域の多様性を調査する「Kanta Project」を実践しています。本展では、彼とともに直島諸島の漂着物を使って手作りしたカメラで、現在の直島の風景や人々を撮影。その過程を記録した映像や使用したカメラ、写真などを展示することで、下道の考える直島独自の“流動性”を視覚的に表現しました。

また、会期中は宮浦ギャラリー六区に併設する「へんこつ」にて、“漂着物カメラ”を使用した町民限定の写真スタジオが毎週土曜日にオープンします。撮影した写真は展示室に随時追加されます。

瀬戸内「漂泊家族」写真館

取材・掲載の際には、下記までご連絡ください。

ベネッセアートサイト直島 広報担当 太田・宮重・早野  
〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7 Tel.087-892-2550 Fax.087-892-2011  
E-mail [press@fukutake-artmuseum.jp](mailto:press@fukutake-artmuseum.jp) <https://benesse-artsite.jp/>

## ■ インフォメーション

- 会期 : 2024年8月9日(金)～2024年10月14日(月・祝)  
※毎週金・土・日曜日、祝日のみ開館
- 開館時間 : 13:00～18:00 (最終入館17:30)
- 会場 : 宮浦ギャラリー六区／瀬戸内「 」資料館  
(〒761-3110香川県香川郡直島町2310-77)
- 鑑賞料金 : 520円 (15歳以下は無料)
- 写真スタジオ : 毎週土曜日 13:00～18:00 要予約 (町民の方のみ申し込み可)
- アーティスト : 下道基行
- キュレトリアル・アドバイザー : 三木あき子
- 主催 : 公益財団法人 福武財団

## ■ 《瀬戸内「 」資料館》について

アーティスト・下道基行による《瀬戸内「 」資料館》は、2019年9月から始動しました。瀬戸内海地域の景観、風土、民俗、歴史などについて、そこに住む人々、関わりを持つ人々とともに、各分野の専門家も交え、調査、収集、展示し、語り合う場として構想しました。「 」の中には毎回の展示のテーマが表記されます。一連の営みは記録として保存し、次への展開に活用していきます。2020年には、東京都現代美術館で開催された「Tokyo Contemporary Art Award 2019-2021受賞記念展」にて下道基行の近年の代表作として展示されました。

過去の展示

- 第1回 瀬戸内「緑川洋一」資料館 (2019年9月28日～11月4日)
- 第2回 瀬戸内「百年観光」資料館 (2020年7月4日～8月29日)
- 第3回 瀬戸内「鍛造景」資料館 (2021年8月14日～9月26日／2022年4月14日～5月18日)
- 第4回 瀬戸内「中村由信と直島どんぐりクラブ」資料館 (2022年8月5日～9月4日／9月29日～11月6日)
- 第5回 瀬戸内「直島部活史」資料館 (2023年9月9日～12月23日／2024年3月2日～2024年7月27日)

## ■ 宮浦ギャラリー六区について

2013年、直島・宮ノ浦地区に設置されたギャラリー。

建築家・西沢大良による設計で、かつて島民が行き交っていた娯楽の場「パチンコ999 (スリーナイン)」を、隣接する公園とともに、島内外の人々が集う憩いの場として開館しました。2019年9月からは下道基行によるプロジェクト《瀬戸内「 」資料館》を展開しています。



宮浦ギャラリー六区 写真：山本糾

取材・掲載の際には、担当者までご連絡いただくか、専用ページよりお申込みください。

| 取材申し込み専用ページ | <https://benesse-artsite.jp/contact/press/>

## ■ アーティストプロフィール

### 下道基行（したみち もとゆき）

1978年岡山生まれ。2001年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。日本国内の戦争遺構の現状を調査する「戦争のかたち」（2001-2005）、祖父の遺した絵画と記憶を追う「日曜画家」（2006-2010）、日本の国境の外側に残された日本の植民／侵略の遺構をさがす「torii」（2006-）など、展覧会や書籍、ワークショップなどで発表を続けている。

フィールドワークをベースに、生活のなかに埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を、写真やイベント、インタビューなどの手法によって編集することで視覚化する。2019年、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館の参加アーティストでもあり、国内外さまざまな展覧会に参加。さらに、作家として作品をつくることと並行して、「Re-Fort Project」（2004-）、「新しい骨董」（2014-）、「旅するリサーチラボラトリー」（2015-）など、さまざまな人々とのグループ／コレクティブでのプロジェクト活動も多数行っている。2019年より《瀬戸内「 」資料館》を企画・監修し、「館長」に就任。

### ジェフリー・リム（Jeffrey Lim）

1978年マレーシア生まれ。廃材等で手づくりしたボックスカメラでポートレートを撮影し、取材やリサーチを通してその地域や人々の多様性を調査・記録する「Kanta Project」（2012-）を実施。これまでにマレーシアやボルネオ島、台湾、日本で撮影を行った。その他、サイクリングルートのマッピングした「Cycling Kuala Lumpur」（2014）、巨大なウォークインカメラで投影の実験をした「Khemah Kamera」（2022）など、カルチュラル・マッピング、パフォーマンス・インスタレーション、写真を用いたソーシャル・アート・プロジェクトに取り組んでいる。現在は文化調査や記録、アーカイブ、後継育成を目的としたプロジェクトを多く手がけ、伝統的なハンドメイド三輪車を制作する「Building the Beca」（2022）や、地元のコーヒー文化に関する研究をアーカイブする「Kopi Lau Workshop」（2023-）などを展開。これらを共有・継続させていくため、ワークショップやロードツアー、出版を通して、制作の技術や知識を広めることにも注力している。